

中央社保協ニュース

14-04号 9月30日発行・中央社会保障推進協議会 (03-5808-5344)

第42回中央社保学校へ全国から238人

憲法25条の实质改憲に進む

安倍政権へのたたかいを深め、学ぶ場に



長友薫輝先生の講義を熱心に聴く参加者(1日目)

第42回中央社保学校は9月25～27日の3日間、岩手県花巻温泉で開催されました。井上代表委員のあいさつで開会した学校は、「ヤスクニイズム・アベノミクスと憲法・社会保障」(1日目・日野秀逸東北大名誉教授)、「国保の歴史と都道府県単位化」(1日目・長友薫輝三重短期大学教授)、「広がり深刻化する貧困と社会保障運動への期待」(3日目・後藤道夫都留文科大学名誉教授)の3つの講演で、情勢と

社保協の役割を歴史的に学び、秋へのたたかいへエネルギーを充電しました。

3年半を経過した被災地からの報告と被災地訪問、社会保障運動の原点を学ぶ沢内村訪問は、改めて現地の実態から課題の深刻さと現状を伝える役割を実感しました。



公文昭夫元中央社保協副会長・原富悟埼玉社保協副会長・による「入門講座」(2日目/写真左)も好評で会場いっぱいの参加者と講師の熱い討論で社会保障運動の歴史と労働組合の果たす役割を深めました。

3日目の「被災地のたたかいの報告」は、改めて運動の原点を確認し、連帯してがんばる決意を深めました。はじめての参加者からベテランまで、現状を学び交流することは、秋への運動を広げる決意と意思

統一の場となりました。戦争への国づくりへ進む安倍政権の異常さの歴史的背景と憲法否定の反国民的な姿勢は、国民との共同で必ず打ち破らなければならないことを、沢内村の「いのちを守る」歩みや被災地のたたかいが示してくれました。参加者からは「沢内村を訪問できてとてもよかった」との感想が多数寄せられました。



沢内村の保健衛生について説明する保健師・高橋和子さん(正面左側)



仮設住宅の住民のみなさん(手前側)と懇談する中央
社保学校の参加者たち(9/26 陸前高田市)

担っていることに勇気づけられる思いです」など社保協運動を広げる決意や「岩手県社保協のみなさんの行き届いた配慮に感謝」の声もたくさん寄せられました。

最終日3日目、沖縄県社保協の知念事務局長から沖縄県知事選支援の訴えがあり、参加者は募金に応え8万円余が集まりました。最後に山口事務局長が「安全・安心の医療・介護を実現する大運動」を提起し、寺川代表委員の閉会挨拶で終了しました。

【沢内コース／レポート報告】 「生命尊重のふるさと・沢内コース」は、26人が参加しました。千葉社保協の藤田さんを責任者にして、東京社保協の相川さんがサポート、地元案内人として岩手生活と健康を守る会事務局長の川口さんが務めました。

朝、8時45分からバスでひたすら沢内村病院めざして走りました。午前10時には「天然温泉の宿・沢内バーデン」に到着。沢内村病院で長い間、看護師として働いてきた高橋和子さんから沢内村での乳幼児無料化と老人医療費無料化を実現させた村民と村長の奮闘ぶり聞きました。講演後は、深澤村長の記念館をおとずれ、その業績をしのびました。

参加者は、深澤村長の「人間の尊厳・生命尊重こそ政治の基本である」言葉をかみしめ新たな闘いを決意しました。なお沢内村は合併して西和賀町となりましたが、今もほんのわずかな一部負担で町民の医療・介護への負担を軽くし、国保沢内村病院を存続させ、いのちを守る行政を堅持しています。

「高橋さんの保健師としての実践を踏まえての話など感動、勇気ができました。深澤さんのパワーと住民の自治力、住民のための真の行政改革の取り組みが沢内村の生命行政を生み出してきたことを理解できました。全体としてとても満足です。ありがとうございました。」「被災地訪問の企画のために遠くの社保学校に

来ました。陸前高田市長のあいさつ、石木前院長の講演はリアルで大変迫力のあるご説明でした。現地を見てテレビや新聞より臨場感がありました。」「陸前高田に行けて良かった。いかに復興が困難かということが実感できた。市長のあいさつで復興担当大臣に会った時に国保料の減免について一番に要請したという話しが印象に残った。石木前院長の話は震災の事のみならず地域包括ケアを考える上でも参考になりました」など学習とフィールドへの感想が寄せられました。

また「地域社保協づくりと力量アップを図ることが急がれていると感じた」

「人々の共同の結節点の役割を社保協が

第187臨時国会始まる！

◆当面の国会行動日程

10月15日、10月29日、11月12日、
11月26日、いずれも水曜、衆議院第2
議員会館前、12時15分～13時までで
す。多数の参加をお願いします。